

会議概要

会議名	令和7年度 第3回はつらつ高齢者部会		
事務局	福祉部高齢者地域包括ケア推進課		
開催年月日	令和8年 2月9日(月)		
開催時間	午後2時～午後4時		
開催場所	足立区役所 1204会議室		
出席者	酒井 雅男 部会長	山中 崇 副部会長	佐藤 浩史 委員
	廣島 高志 委員	小浦 梓 委員	山ノ内 聖一 委員
	内山 清 委員	堀 崇樹 委員	
	半貫 陽子 室長	神家満 麦 係長	千ヶ崎 純子 係長
	佃 美幸 係長	富田 光 係員	
欠席者	賀川 幸英 委員		
会議次第	別紙のとおり		
資料	<p>① 次第</p> <p>② 委員名簿</p> <p>③ 【報告事項1】令和8年度「はつらつ教室」の実施概要案についてはつらつ教室カリキュラム案</p> <p>④ 【報告事項2】令和8年度「みんなで元気アップ教室」の実施概要案について みんなで元気アップ教室プログラム(案)</p> <p>⑤ 【報告事項3】あだち脳活ラボ新機能について 新「あだち脳活ラボ」リーフレット(案) 現「あだち脳活ラボ」リーフレット</p> <p>⑥ 【報告事項4】共食の場推進事業の実施について シニア男性向け「ぱく増し」教室チラシ×2種類 ぱく増し月間応募はがき あだち広報 令和8年1月25日号</p> <p>⑦ 【報告事項5】令和7年度地域資源の把握および地域課題の抽出に関する報告について(非公開)</p>		
その他			

○富田 ただいまから、令和7年度足立区地域包括ケアシステム推進会議第3回はつらつ高齢者部会を開催いたします。

本日はお忙しい中ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。本日の司会は、高齢者地域包括ケア推進課はつらつ高齢者支援係の富田が担当させていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

初めに、資料の確認をさせていただきます。まず、「次第 令和7年度足立区地域包括ケアシステム推進会議 第3回はつらつ高齢者部会」。続いて、「はつらつ高齢者部会 委員名簿」。続いて、「令和8年度『はつらつ教室の実施概要案について』」。続いて、「はつらつ教室カリキュラム案」。続いて「令和8年度『みんなで元気アップ教室』の実施概要案について」。続いて「みんなで元気アップ教室プログラム（案）」。

続いて、「『あだち脳活ラボ』リーフレット（案）」。

続いて、「シニア男性向け『ぱく増し』教室」のチラシ2種類になります。1つ目が「読む団地併設ブックマーク会場」、もう一つが「ギャラクシティ・とんがりキッチン」会場のチラシです。

続いて、「ぱく増し月間応募ハガキ」。続いて、「あだち広報 令和8年1月25日号」。

最後に、「令和7年度生活支援体制整備事業 地域資源の把握および地域課題の抽出に関する報告書」になります。

不足等はございますでしょうか。

この会議は、足立区地域包括ケアシステム推進会議はつらつ高齢者部会設置要

綱第6条により、委員の過半数の出席により成立いたします。現在過半数に達しており、この会議が成立いたしますことをご報告いたします。

皆様からの活発なご意見、ご質問を頂くため、迅速な会議進行にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

なお、この会議の会議録は公開することとなっております。記録の関係上、ご発言の前にはお名前もお願いいたします。

それでは、初めに酒井部会長から開会のご挨拶をお願いいたします。

○酒井部会長 皆様、こんにちは。

今日は令和7年度の第3回の部会ということで、7年度の節目の部会になります。報告事項にありますとおり、令和8年度の実施概要案等の報告というものがあります。

本日は限られた時間ですけれども、皆様の意見、より増していただければというふうに思います。

それでは、早速議事のほうに入りたいというふうに思います。

挨拶は以上になります。

○富田 酒井部会長、ありがとうございました。

それでは、議事に入らせていただきます。これからの議事進行につきましては、酒井部会長、よろしくお願いいたします。

○酒井部会長 それでは、次第に従って進めさせていただきます。

次第2の「報告事項」としまして、1の「令和8年度『はつらつ教室』の実施概要案について」、事務局のほうからご報告をお願いしたいと思います。

○神家満係長 それでは、事務局のはつらつ高齢者支援係の神家満から、ご説明をさせていただきます。

部会長のご挨拶にもありましたとおり、今年度最後の部会になりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

説明の前に資料訂正のご報告をさせていただきます。お配りした「委員名簿」の出欠状況ですが、足立区医師会の賀川委員が都合により、本日は欠席となっております。失礼いたしました。

それでは、報告事項(1)の「令和8年度『はつらつ教室』の実施概要案について」ご説明をさせていただきます。

資料1ページをご覧ください。8年度の「はつらつ教室」実施に向けて、今年度この部会でいろいろと課題を整理させていただきます。内容を検討させていただきました。

前回の第2回の部会でご報告した内容で今回大きな変更点はないのですが、何点か少し変わった部分もございますので、その点を中心にご説明をさせていただきます。と思っております。

まず、項番1の「はつらつ教室の目的」ですが、こちら「再掲」となっております。地域の高齢者の方が主体的かつ継続的にフレイル予防に取り組めるよう、具体的な知識や方法を学ぶことで、実践への意欲を高め、日々の行動変容を促していく、つまりは、フレイル予防の導入講座としてこの「はつらつ教室」を位置づけて、実施していく目的でやってきております。これまでの課題といたしましては、連続開催型の開催形態によりリピーターが多く、学びの場というよりは特に運動する実践の場となっている点や、会場となる地域学習センターのほうでも、こういった教室の類似の事業を実施している状況がございました。

これらの課題を踏まえまして、今後の

「実施概要案」が項番2になります。

(1)の「実施方針」は、フレイル予防の「運動」「栄養・口腔」「社会参加」、この3本柱をテーマに、各分野の専門職による講義と実演を交えた講座として実施していく方針で考えております。

(2)の「回数」については、現在の「はつらつ教室」の参加状況や、今後の費用対効果を踏まえまして、「プール型」「室内型」の2種類あった開催形態を「室内型」に一本化していく方針で考えております。

少し飛びまして(6)の「カリキュラム案」についてご説明いたします。めぐっていただいて別紙1をご覧ください。

こちら新しい「はつらつ教室カリキュラム案」ということで、前回も似た資料をお示ししたのですが、少し変わった部分がございます。特に赤線を引いた部分になりますが、まずは講座の順番を、前回は「栄養」「口腔」「運動」の順番で考えておりましたが、今回「口腔」「栄養」「運動」の順番に改めさせていただきました。

また、講師の依頼先ですが、「口腔講座」について前回の部会では調整中とご報告をさせていただきましたが、東京都足立区歯科医師会の佐藤先生ともご相談をさせていただきます。歯科医師会様にお受けいただける方向で、現在調整を進めているところでございます。

また、「運動講座」の内容をご覧ください。この教室の中で実施する予定です。アンケートは、現在作成中ですが、教室に参加する前と後で、参加者の方の意識変容を測れるようなアンケート項目を現在検討しているところでございます。

また、「運動講座」の講師の依頼先についても、東京都理学療法士協会およびあだちPOSネットワーク、こちらの山ノ内先生ともご相談させていただきながら現在調整をしているところでございます。

資料に戻っていただきまして、項番3です。これまでの「はつらつ教室」は継続の場となっていたのですが、やはり運動を続けるというところは、我々としても高齢者のフレイル予防で重要な視点と考えております。従来のリピーターの参加者の方が活動を継続する場の確保も重要と考えております。

まず、「室内型」につきましても、既存施設で実施している類似事業をより拡充する方向で、現在、所管と調整しております。

また、その施設が講座を運営しやすいよう、施設に対して「あだち脳活ラボ」の教室型のプログラムを無償提供できる仕組みを構築する予定で考えております。

また、「プール型」事業につきましても、同じく類似型の事業の拡充というところで、施設側に働きかけを行っているところです。

最後に、「今後の方針」ですが、既存施設に「あだち脳活ラボ」のコンテンツを提供するに当たっては、ただ単に「使ってください」ということではなく、「あだち脳活ラボ」のコンテンツが、いつ、どの会場で使われたかというところもきちんと我々の施策に反映できるようデータとして蓄積できるように、システムの見直しも並行して行っているところでございます。

簡単ではありますが、私のほうから説明は以上です。

○酒井部会長 ご報告ありがとうございます

ました。

今の報告を受けまして、皆様のご意見を伺いたいと思います。

では、私からよろしいですかね。

3番のところ、「従来のリピーター参加者が活動を継続する場の方針案について」ということで、これまでの方が行き場がなくなるということも好ましくないということ、(1)の例えばアのところでは、「既存施設にて実施する類似事業を拡充する」とあるのですが、どのような形で既存事業のほうにはつらつ教室のリピーターを受け付けていただくのか、具体的な対策、対応を何か取られているのですか。

○神家満係長 まず、現状の情報共有ということで、施設を管理している庁内の所管と打ち合わせをしました。

こちらについて、現在「はつらつ教室」年8回実施しているのですが、なるべくその回数に近い回数を実施してもらうよう、施設側に働きかけるように依頼をしているところでございます。

○酒井部会長 あともう1点なのですか。例えばこの「あだち脳活ラボ」コンテンツの無償提供ということですが、提供の仕方はどういう形になるのですか。

○神家満係長 事務局のはつらつ高齢者支援係、神家満からご回答します。

提供の方法について、現状では「あだち脳活ラボ」は、LINEを入り口としたサービス提供を行っております。施設側がコンテンツを使うに当たって、LINEを介して使うということは難しいので、コンテンツそのものをオンラインの状態から利用できるような仕組みを今、検討しているところです。

○酒井部会長 これは、令和8年度に向けて実際に提供できるようにということですかね。

○神家満係長 そうですね。我々は令和8年度中にできるように、今事業者と調整をしております、イメージとしては各施設の方が施設で保有しているパソコンからインターネット環境にアクセスをして、そこで「あだち脳活ラボ」のコンテンツを利用できるというところを考えています。

○酒井部会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。お願いします。

○内山委員 シルバー人材の内山です。

質問なのですけれども、2番の「実施概要」について、「プール型」をやめて「室内型」に一本化するというお話でしたよね。3番のほうで「プール型」とあるのは、「従来やっている方はそのまま継続できる」ということですよ。

新しく「プール」をやりたいという人は、指定管理者の既存事業に参加することができるのですか。

○神家満係長 事務局のはつらつ高齢者支援係の神家満です。

はつらつ教室は「室内型」に一本化する予定で考えています。また、プールの施設に対しても、現状既に自主的に実施している教室の実施回数や定員数を増やす等といった拡充の働きかけを今行っているところです。

なので、新しくプールの教室に通いたいという方が施設の既存事業に参加することは可能だと思います。

○内山委員 ありがとうございます。

○酒井部会長 ほかいかがでしょうか。

それでは、また戻ってくることはできますので、先に進んでいきたいというふ

うに思います。

それでは、次第の2の報告事項の(2)

「令和8年度『みんなで元気アップ教室』の実施概要案について」、事務局からご報告をお願いしたいと思います。

○神家満係長 引き続き、事務局のはつらつ高齢者支援係の神家満からご説明いたします。

こちらの「みんなで元気アップ教室」につきましては、前回の部会で課題を整理し、今後の変更の方針のところまでご説明をさせていただきました。

この「『みんなで元気アップ教室』の目的」のところですが、フレイル予防の知識を学びながら、グループワーク等を通じて参加者同士の親睦を深め、新たな自主グループを創出するというのが教室の目的になっております。なので、フレイル予防をする、学ぶではなくて、そこから先、地域で活動するグループをつくるというところまでがこの教室の肝となっております。ただ、現状の課題としては、そのつくるグループがウォーキングに特化したグループになっています。それがゆえに、参加者数の低迷が起っております。

これらの課題を踏まえまして、項番2の「実施概要案」のところで記載させていただきました「実施方針」です。ウォーキングに限定せずに、様々な趣味に通じる体験を、この教室プログラムで体験をしていただき、自分の好きなことや取り組みたいことを発見しながら、仲間との継続的な活動につなげていく教室に変えていこうと考えております。

(2)の実際にやっていただく「体験内容」なのですけれども、令和8年度については「絵手紙」と「折り紙」と「ボッチ

ヤ」、この3種目を予定させていただいております。このプログラムについては、前回の部会で委員の皆様からたくさんご意見を頂き、我々の中でも非常に悩んでこの3つに絞らせていただきました。

やはり運動と文化系を織り交ぜたいというところと、活動費や場所のハードルが低いこと、あとは自主グループを目指す教室という趣旨を考えまして、複数人で共有・体験できることであったり、前回委員からご意見いただきました、発表の場であったり、競争性を促すようなもの、大会等があるものなど、いろいろな視点を加味して検討しました。また、今回初めてこういう教室に変えますので、まずは、より実現可能性が高いものということでこの3つを選ばせていただきました。

ただ、今後ずっとこの3種目でやっていくかということではなく、令和9年度以降も随時、関係機関とプログラムの見直しを図って、ブラッシュアップをしていきたいと思っております。

前回頂いたプログラムのアイディアは今後の参考として蓄積させていただいて、ぜひ今後も活用させていただきますのでよろしくお願いいたします。

(3)の「回数」につきましては、ホウカツの25地区圏域で年1回ずつ、全12回のプログラムで実施します。12回のプログラム案については、別紙1で記載をさせていただきました。1回当たりの時間は120分間で、会場は地域学習センター、住区センター等を予定しております。

目標定員500名で、年間スケジュールは5月のゴールデンウィーク明け頃から教室を始め、夏の8月の遅くとも中旬

ぐらいまでには教室を終え、年度中に2回、講師によるフォローアップを実施する予定です。

続きまして、項番3の「参加特典案」ですが、教室の参加促進をするための特典としましては、教室のプログラム内で「ぱく増し」のてぬぐい体操を行い、そのてぬぐいのプレゼント、またセラバンドといった、ゴムを使った簡単な筋トレができるのがあるのですけれども、それもプログラムに入れてプレゼントしたいと考えております。

また最後に、教室を卒業するとき、何か連帯感が生まれるようなものということで、例えば年度と教室名の刺しゅうをしたオリジナルペットボトルホルダーなど参加者同士で一体感が持てるようなグッズをお渡ししたいと考えております。

年間のグループ創出数の見込みは、1地区2グループで計50グループを予定しております。引き続き地域包括支援センターをはじめ関係機関と調整、検討していきながら、事業開始に向けて準備を進めてまいりたいと考えております。

私のほうからは以上です。

○酒井部会長 ありがとうございます。

それでは、今の説明についてご質問等を頂ければと思います。お願いします。

○広島委員 広島です。よろしくお願いいたします。

参加者の特典案として、てぬぐいとセラバンドというのがありまして、その中で「教室中に参加の方が使う」とあるのですけれども、今回この「元気アップ教室」で体験が3つあると思うのです。どういった形でこの特典が使われるのかをお聞かせいただければと思います。

○神家満係長 事務局の神家満からお答えします。

そちらにつきましては別紙1の「みんなで元気アップ教室プログラム(案)」をご覧ください。縦軸で1回から12回のプログラムになっております。

3つの体験につきましては、まず1回目の教室で1から3のプログラムのご紹介をし、2、3、4回目で、1つずつプログラムを体験していただこうと考えています。

ただ、プログラムの体験だけではなく、前半では運動であったり、栄養の講座だったりとこのところを考えていますので、その運動のところではセラバンドを使った運動を実施したり、栄養講座の後にある体操のときにてぬぐいをお渡ししたりとか、そのように考えています。

○広島委員 ありがとうございます。

○酒井部会長 よろしいですかね。

「みんなで元気アップ教室プログラム(案)」のこのカラー刷りの、緑色の体験①②③というところに、こちらの体験内容「絵手紙」「折り紙」「ポッチャ」というのが入っていくということなのですね。

○神家満係長 おっしゃるとおりです。

前回の部会で部会長からも、手先を使うというところが脳の活性化にやはり大事ではないかというところで、今回「折り紙」を体験プログラムに加えさせていただきました。

○酒井部会長 このア「絵手紙」とイ「折り紙」が似ていると思うし、手の巧緻性というものに関わるというふうに思うのですね。

これがまず選ばれたというのは、人材確保という点で、確保しやすい部分はあるというふうに思います。あとは場所の

ハードルかと思います。

○神家満係長 おっしゃるとおりです。

「折り紙」「絵手紙」ですと、活動を実際に継続するということに、材料費が安価で集めやすい、手に入れやすいということも加味しています。

○酒井部会長 なるほど。私も結構いろいろな体験教室も調べてみたのですが、やはり使う題材のものが高価であったりすると実施に結構ハードルが上がってしまって、負担が生じたりとかあるので、そういった点を加味して今回選ばれたということですかね。

○神家満係長 はい。

○酒井部会長 いかがでしょうかね。

○山中副会長 山中です。教えていただきたいのですが、12回の教室を約3か月で、恐らく毎週開催されるということだと思いますが、その後フォローの①と②で個別にフォローアップされるということですが、この3か月以外の残りの3分の2の期間、具体的にどのようにこの活動が継続されるのでしょうか。

○神家満係長 事務局の神家満からお答えします。

まず、教室を卒業するときには複数のグループが立ち上がる見込みで考えております。

講師はグループに対して個別にフォローをするのですが、活動を継続する上での課題、例えば場所ですとか連絡方法ですとか、そういったグループ活動を運営していく上での課題を、ヒアリングをして「こういうふうにやったらいいのではないかと」アドバイスをしていくことを今想定しています。

これまでは、地域包括支援センターがその業務を担っているところはあったの

ですけれども、やはり個々のグループに最初からアプローチしてしまうと、そのグループがハウカツ頼みになってしまったり、「継続支援が大変だ」というお声も頂いておりました。そこで、年2期実施していた事業を年1期にして、後期の部分は、事業者の講師の方にそのフォローをしていただくという、そういうすみ分けを今考えています。

○山中副会長 そうしますと、フォローの1と2の期間というのは、活動を継続している期間ということ。

○神家満係長 おっしゃるとおりです。

○山中副会長 分かりました。

○神家満係長 このフォローを実施する①②の時期も、教室を卒業してしばらく時間が空いてしまうと、その間に解散してしまうグループとかもありますので、まず早めに1回目のアプローチをする。2回目のアプローチはあえて時間を空けて、少し自分たちで試行錯誤しながら活動していただいて、二、三か月空けてからフォロー2回目を実施するというので、実施時期を2回に分けたのはそういう狙いがあります。

○山中副会長 ありがとうございます。

○酒井部会長 今の点で、教室の会場は「地域学習センター、住区センター等」というふうにあります。このフォロー①、フォロー②というものは、フォローする場所とか、時間設定とか、どういうふうな形で行われるのですか。

○神家満係長 そこは現在も検討しているところにして、できればグループが活動している場所に講師が向かうというのが、当初我々が考えていた理想の形ではあるのですけれども、必要によっては我々のほうでフォローアップ講座とし

て場所を押さえたところに、グループと講師をマッチングさせるというやり方も現実的には必要なのかなと。そこは事業者と今後詰めていきたいと考えています。

○酒井部会長 動きを見てということですね。

○神家満係長 そうですね。出来上がったグループの数にもよってきますので。

○酒井部会長 「自主グループを創出する」ということですから、やはりまず動かしてみないと分からないという部分ですかね。

○山ノ内委員 すみません、山ノ内です。

今のお話の続きになるかもしれないのですが、自主グループを創設するのが目的だと思うのですけれども、そこに行くというのも1つだと思うのですが、そのグループを運営していくリーダーの人たちがいると思うのです。一番相談をしたいのはそういう人たちだと思うので、グループに行ってフォローアップするのではなくて、リーダーの人を集めて相談会を開催するというほうが、活動の継続につながるのではないかなと思いました。

○神家満係長 ありがとうございます。事務局の神家満です。

おっしゃる視点はもっともだと思います。やはりリーダーさんの悩みというのはあると思います。

先ほどハウカツと事業者の役割を分けて考えていきたいとご説明しましたが、ハウカツには、複数の自主グループを交流させるような仕掛けをお願いすることを検討しております。他のグループを知るところで、リーダーさんの悩みとか、運営の仕方とか、新しい知恵・知識が入ってきますので、そういう部分を、地域資源をよく知るハウカツを通じて活

性を促してもらいたいと思っています。

○山ノ内委員 山ノ内ですけれども、お互いのグループがどういうことをやっているかを知るというイメージですかね。

○神家満係長 そうですね。交流会を仕掛けてもらえると。

○山ノ内委員 もう一つだけご質問なのですけれども。1グループの人数はどのくらいが一番多いのですか。

○神家満係長 数はまちまちなのですけれども、足立区のほうでは「通いの場」の定義の1つとして3人以上という人数は設定させていただいています。ただ、グループによっては、5人ぐらいの小規模グループもあれば、10人ぐらいの規模のグループもあります。

○山ノ内委員 ありがとうございます。

○堀委員 基幹地域包括支援センターの堀と申します。

交流の機会を、地域包括支援センターごとにつくるのがいいのではないかという話を相談させていただいてきました。来年度の計画の中にも見込まれる予定ですが、大きくは、機能的には2つ期待されているところがあるかというふうに思っています。1つが、それぞれのグループさんの自立度を高めるための研修機会ですね。山ノ内委員からご指摘のあったところです。同じリーダー同士で運営についての悩みなどとか、工夫みたいなことも意見交換するというのも、これまでに居場所づくりの交流会などでやってきたことをやっていこうというのが1点です。あともう一つは、一つひとつのグループが3人から10人というような感じでグループ化されているわけですけれども、そのグループの運営も大事なのですが、地域という面を見たときには、そ

のグループ同士が行き交ったり交流があるということが、地域がつながっているということの詳細にもなるかと思いますので、そういう意味で団体同士での交流というのもエリア内でできれば促していきたいというふうなところで地域づくりに向けばいいと。その2点をイメージしまして、交流会ができたらいいのではないかなというようにお話をしてきたところだと思います。

○酒井部会長 ありがとうございます。よろしいですかね。

○内山委員 シルバー人材の内山です。このア、イ、ウの3つの種目、これは何か既にベースがあるのでしょうか。全く白紙の状態なのですか。

○神家満係長 事務局の神家満です。

「みんなで元気アップ教室」でこのア、イ、ウのプログラムをやるというのは初めてです。今まではウォーキンググループをつくることだけに特化したプログラムで、こういった様々なプログラムをやるというのは一切やってきていないので、初めての試みです。

○内山委員 そうすると、アプローチとしては、何かで募集をしてからやりたいという人が集まってきて、3種類のプログラムのうちどれか興味のあるものを選んで集まり、その中でグループをつくっていくという感じなのですか。

○神家満係長 おっしゃるとおりです。募集の段階で「いろいろなプログラムが体験できますよ」「気に入ったプログラムを参加者さん同士選んでいただいて、複数のグループをつくって、地域で活動してもらおうことを目指した教室ですよ」とお示したうえで、募集をかける予定です。

○内山委員 足立区の高齢者の方全員に何か配信するのですか。

○神家満係長 予定としては、あだち広報で周知するということと、地域包括支援センターのほうから事業のお誘いをしていただく予定です。

○内山委員 もう3か月ぐらいしかないですが、結構このスケジュールで行くと厳しいというふうに今思ったのですけれども。

○神家満係長 そうですね。ただ、この「元気アップ教室」については、例年あだち広報と地域包括支援センターの勧誘ということで募集をさせていただいて、やはり開始時期もゴールデンウィーク明けなので、4月の気候がいいときにホウカツに地域を回っていただくので、そこでも積極的に勧誘をしていただいているところです。

○堀委員 よろしいですか。基幹地域包括支援センターの堀です。

内山委員から頂いたお話も非常に大事なポイントで、このプログラムの中で体操をします、ウォーキングもします、ぱく増しも学びます、絵手紙と折り紙とポッチャもしますと、そういう講座になっているわけなのです。

これまではウォーキングで特化してきたと。これを何かしら新しいプログラムに変えていこうとしたときに、やはり習熟するということを狙って、例えば「折り紙しかしません」というふうになったときに、参加者がどういうふうに動くかとなると、ウォーキング以上に随分偏ったプログラムになってしまうというようなところがございます。介護予防活動に参加していただける方が少なくなっているという中では「いろいろな体験が

できる。その中からあなたの活動を見つけてみませんか」というようなイメージでプログラム内容を協議してきたという経過でございました。

○内山委員 ありがとうございます。

○酒井部会長 よろしいですか。今ご説明いただいて、先ほどのこの講話プログラムがあって、今実施している運動もあって、その後に体験プログラムがあると。このア、イ、ウは、一応この全ての会に同時に3つとも体験していくのですか。それとも、ある回は絵手紙で、ある回は折り紙というような形を考えているのですか。

○神家満係長 事務局の神家満です。

イメージとしては、最初の第2回、3回、4回で、1つずつプログラムを皆さんに体験をしていただきます。その後、スマホ教室とか屋外ウォーキングというのを挟むのですけれども、第7回目以降は、実際に自分が興味があるようなプログラムでグループに分かれていただいて、そのグループごとにプログラムをやっていただくようなイメージです。

なので、7、8、9、10、11回目まで、緑の「グループに分かれて体験」とあるのですけれども、折り紙を選んだグループは、ここの後半で折り紙をやっていただく。各回を重ねて折り紙の作品をつくったりとか、違うものを習ったりとか。絵手紙のほうもテーマを決めて違う絵を描いていただいたりとか。そのグループごとの体験に分かれて、それに特化してやっていただくようなイメージで考えています。

○酒井部会長 例えば後半で、グループに分かれてということなのですが、「グループワーク」と「グループに分かれて

体験」とあるのですけれども、このグループワークと体験はどういうような流れになるのですか。

○神家満係長 事務局の神家満です。少し分かりにくくて申し訳ありません。この水色の「グループワーク」については、やはり地域で活動が続けていく、グループ活動が続けていくに当たって学んでおきたいこと、例えば活動場所の取り方とか、連絡手段の方法とか、そういうプログラムをやる前に、グループとして活動するにはどういう考え方を持っていたほうがいいのか、どうしてこれが必要なのかというのを学ぶ時間が必要です。そこを学んでいただく時間にこの水色の「グループワーク」は考えています。

○酒井部会長 かなり積極的な参加者でないと入り込めない可能性があるのですけれども、確かにこのプログラム全体が1回で終わりではなくて、全体で親睦も深めるし、全体で楽しむし、学んでいくし、そして自分の好みを選んでいくしという、これは全体で見るということなのです。

○神家満係長 そうですね。最後、卒業のときには、より連帯感を持てるように何か共通のグッズをとというのも、仕掛けの1つとして考えています。

○酒井部会長 そうすると、スタートでしっかり人が集まってないと、先ほど内山委員のほうからもあったのですけれども、人が少ない形になりそうだからその部分が結構大きいかもしれないですね。人をしっかり集めて一定の人数がいないと。増えることはあまりなくて、しぼむことはあったとしても。

○神家満係長 実際現場で勧誘していただく地域包括支援センターの方から、「ウ

オーキングだけで勧誘するのはなかなかつらくなってきた」というお声も頂きました。参加するところのメリット、「こういうグッズがもらえるのだよ」とか「こういうことができるのだよ」というメリットを武器として言えると、そこは勧誘の仕方が変わってくる部分が大いにあるので、事業の改変については好意的に受け取っていただいています。

○酒井部会長 地域の学習センターや住区センター等で、私の認識では折り紙とか絵手紙とかの教室などもたまに開かれているので。

例えば、今内山委員からお話があった、突然、何月かに広報でただ打ち出すだけではなく、常に先行して各地で行われている実際のこの講座の人にもお声をかけて、核になりそうな方もやはり確保しておかないと、実際、核になる人が集まらなかったということになっても困るというのはあるように思うのです。

あともう一つは、地域で自主グループをつくるということなのですけれども、つくった後はお任せなわけですね。絵手紙にしても折り紙にしても、物が必要だし、場所も必要だし、費用がかかると思います。

例えば、このグループワークの中では、地域のそういう自主グループをつくっていくに当たって、ある意味、区のこの最初のフォローアップの部分の手を離れた後の、有料であることについての問題点とか、トラブルとかそういった点が起きないような対処というものはどのように考えるのですか。

○神家満係長 事務局の神家満からお答します。

まず、勧誘の方法、確かに、まず人を一定程度集めるというところは非常に重要

なところなので、これは引き続き現場のハウカツにご協力いただくよう調整させていただきます。

もう一つ、自主グループができた後の活動を継続する上で課題にならないようにというところなのですけれども、基本的には「自主」グループなので、やはり自立的に活動を継続するということが大事だと思っています。立ち上げのところでフォローするというのはあるかと思うのですが、区の事業で立ち上げたグループだからということではいつまでも経費を補助するとか、そういった支援を続けていては双方関係性がよくないので、そこは自主的に活動をしていただく。そのために選定したプログラムのほうもなるべくハードルが低いものを選ばせていただきました。

また、実際に活動するときには生じるような費用について会場費用などがあるのですが、例えば「この施設のこういう登録団体になると施設が取りやすいですよ」とか「割安でできますよ」とか、「こういう趣旨のグループになると活動費の補助が出ますよ」とか、そういったご案内も、もちろん教室の中であわせてやらせていただいて、なるべく各グループが自主的に活動できるようなご案内をしていきたいと思っています。

○酒井部会長 ありがとうございます。

ほかよろしいですかね。

○山中副会長 いいですか。山中です。

今回のプログラム、12回ということですが、12回参加するというのは何かハードルが高いような気もするのですが、みんな引いてしまったときに参加者を一定数集める方策というのはいくつか検討されていますでしょうか。

○神家満係長 そうですね。現状、今年度は10回のプログラムになっていて、それが2回増える形になります。最初からもちろんスケジュールはお示した上でなのですけれども、参加特典を一度に渡すのではなく、続けて参加したときや卒業するときに渡すことによって参加のモチベーション維持につなげていきたいと思っています。

○堀委員 よろしいですか。基幹地域包括支援センターの堀ですけれども。両論ありまして、現在は10回からスタートしているのですが、肝心のこのリクルート活動、「参加してみませんか」をやるのは地域包括支援センターのお声がけというのが大きいわけなのですけれども、地域包括支援センターのほうから、「仲よくなるためにはもう少し長い時間あるといいのだけれども」ということで「15回ぐらいやってもらいたい」みたいな話もありました。

参加される当事者、住民の方とは言えば、区がやっているプログラムで安心して参加するという動機が1つあるわけで、その場合は長ければ長いほど、無料の講座というか区の講座に通う機会が得られるという捉え方もかなりありそうな感じがしていますので。回数が12回、3か月にわたるので、「二、三日でできるプログラムだったらいいのだけれどもな」という発想の方よりは、「できるだけ長く通いたい」のニーズのほうをよく耳にするような気がいたします。

○山中副会長 ありがとうございます。

○酒井部会長 ありがとうございます。

それでは次に、「あだち脳活ラボ新機能について」を事務局のほうからまずご報告のほうをお願いしたいと思います。

○神家満係長 事務局の神家満からご説明いたします。

「あだち脳活ラボ」、これまでこの部会でも機能の拡充、内容の報告をさせていただきましたが、このたび新たに機能を拡充する予定でございます。

資料を広げていただいて「脳活ラボリーフレット(案)」の「中面」、オレンジ色のほうをご覧くださいののですけれども、現在「脳活ラボ」7,000人近くの方にご登録いただき、高齢者の方だけでも4,500人近くの方に日々ご利用いただいている状況です。

もちろん、脳トレとかオンライン動画とかの視聴もしていただいているのですけれども、我々としてはそれだけではなくて「あだち脳活ラボ」を介して外出を促し、社会参加に繋げていきたいということで、いろいろ取り組んできております。

その取組をさらに後押しするところで、この「スタンプラリー機能」を新たに実装する予定で考えております。具体的には区内にある公園等にスタンプラリーのスポットを設けまして、そのスポット1つひとつを巡っていただく。それごとにもポイントはつくのですけれども、コースを完全制覇しますとボーナスポイントがつくというような仕組みで予定しております。

本当であれば今日皆さんに出来上がったリーフレットをお持ちしたかったのですけれども間に合いませんでしたので、現状(案)という形でこのような形でお示しをさせていただきました。

2月の下旬には、刷り上がりを予定していますので、またできましたらいろいろなところに配って皆さんにご案内のほ

うをしていきたいと考えております。

簡単ですけれども、説明は以上になります。

○酒井部会長 ありがとうございます。2つ折りになっているものがある、これが今現在のですね。この新しい「リーフレット(案)」のほうは、3つ折りになるのですか。

○神家満係長 3つ折りになります。

○酒井部会長 報告ありがとうございます。

それでは、その点についてご意見を頂きますでしょうか。

○廣島委員 よろしいですか。今現状で、対象スポットというのは大体どのぐらいを想定されているのですか。

○神家満係長 事務局の神家満です。今予定しているのは2コース設ける予定で、1コース当たり8から10か所ぐらいのスポットを考えています。できれば、今後コースは順次増やして行って、例えば常設型のコース以外にも期間限定のイベントコースとか、そういうものもつくっていきたいなと構想はあります。

○廣島委員 どういったところをスポットにするのですか。

○神家満係長 メインは公園などの公共の場を考えています。

○廣島委員 ありがとうございます。

○酒井部会長 いかがでしょうか。

○佐藤委員 歯科医師会の佐藤ですけれども、これはポイントが貯まると何かもらえるのですか。

○神家満係長 事務局の神家満です。

現状お配りしておりますリーフレットの中をお開きいただきたいののですけれども、左下の部分です。「あだち脳活ラボ」内で貯めたポイントを使って2種類使い

道がございまして。まず一つ目が、「最大500円分のクオ・カードペイが当たるガラガラ抽選」、これはスマホの中でガラガラが回せるようになっています。区内65歳以上の高齢者の方が対象で、当たれば最大500円分のクオ・カードペイが当たり、そのままコンビニとかドラッグストアでお買い物に使えるものになっています。

2つ目の使い方としましては、「あだち脳活ラボ」内で、自分のキャラクターがあるのですけれども、そのキャラクターのカスタマイズにポイントを使える機能がございまして。こちらは、どの年齢の方でも使える機能になっていますので、全てのユーザーが対象となっております。この2種類がポイントの使い道です。以上です。

○佐藤委員 すみません、もう1個。

このスタンプラリーの中に、こういう「対象のスポット」ということですが、今後例えば「はつらつ教室」の参加時にもポイントを付与することは検討しているということですか。

○神家満係長 こちらにつきましても、スタンプラリーのものとは別に、既存の「はつらつ教室」も含めて区の介護予防教室に参加したときにポイントの付与ということは行っております。ほかにも「パークで筋トレ」とか「ウォーキング教室」「はじめてのフレイル予防教室」などでも参加したときにポイントの付与ということで、二次元コードを読み取っていただいてポイントのプレゼント等を行っています。

一方で、その二次元コードを読み込んでいただくことで、参加者がいつ・どこで・どの教室に参加したかという情

報も我々のほうで一元管理できるようになりますので、この「あだち脳活ラボ」のデータベースで蓄積した情報を使って施策の効果分析とか、そういったものにも使っていきたいと考えています。

○佐藤委員 では、今既にやられているということだと、それをすることである程度、参加者の人のモチベーションとかが上がっているという形ですか。

○神家満係長 はい。このポイント、非常に高齢者の方にすごくモチベーションにつながっていると我々のほうは認識しています。区のイベントなどでも「何々ポイントをプレゼントするのでぜひ来てください」と言うと、やはり皆さん、朝並んで来てくださったりとか、土日連続で来てくださったりとか。あとは施設を巡って「施設チェックインポイント」というのもあるのですけれども、やはり「毎日そこの施設を回ってポイントを集めるのが自分の日課になっているのだ」ということをおっしゃってくださる参加者さんもいて、ここは非常に有効なインセンティブになっているなというふうに認識しています。

○佐藤委員 分かりました。ありがとうございます。

○廣島委員 よろしいですか。ポイントのところで「キャラクターをカスタマイズ」とあるではないですか。ビュー坊を追加することは検討しているのですか。

○神家満係長 現在、ビュー坊を追加する予定はないのですが、キャラクターのカスタマイズ及びキャラクターそのものも、種類を小出しに増やしております。ついこの間は干支の午のキャラクターを追加しました。

○酒井部会長 「最大500円分のクオ・

カードペイがその場で当たるガラガラ抽選に挑戦！」ですけれども、これはどれくらいの頻度で当たるものなのですか。

○神家満係長 事務局の神家満です。やはりこの「あだち脳活ラボ」を利用したいと思うモチベーションにつながる重要な部分だと思っています。なので、やはり一定程度参加していただいた方が「当たるのだな」と思っていただけのような割合では考えています。

○酒井部会長 了解いたしました。実際に喜んでやられている方いらっしゃるの、それなりに当たっているということだと思いますけれどもね。

ありがとうございます。では、この点はよろしいですかね。

次に、(4)「共食の場推進事業の実施について」を事務局のほうからご報告お願いしたいと思います。

○千ヶ崎係長 高齢者栄養施策推進担当の千ヶ崎から「共食の場推進事業の実施について」ということで報告をさせていただきます。5ページとなります。

「楽しみながら食事を取る」「交流を行う」という共食の場がコロナで一時中断していたのですが、また少しずつ再開をし始めております。

一方で、物価の高騰もあり食材料費とか、お弁当を買って皆さんで食べている共食の場もあるのですけれども、「活動費が負担だ」というお声も団体さんから頂いておりましたので、令和8年度から共食の場を運営する団体に対して、食材料費とか、お弁当代とか、会場使用料、講師を呼んだ場合の講師謝礼など活動費の一部を補助する共食の場推進事業の実施を予定しております。

まだ令和8年度の予算が成立する前と

いうことで、ここでご報告できるのは概要のみになってしまうのですけれども、まず項番1「共食の場の目的」としましては、やはり孤立防止、それから心身の健康増進、交流の場の促進ということで考えております。

項番2「補助内容」としましては、予算額は今442万円ほど計上をしております。衛生面、それから献立の相談には、区の栄養士のほうがサポートということで回らせていただきまして、令和8年度は10団体程度にこの補助金を使って申請をして、共食の場を運営していただければというふうに考えております。

今後、4月予算が成立したらになるのですけれども、4月に入ってこの補助金の公募をして、4月の中旬には団体向けの説明会の開催を考えております。

既存の団体の支援をするとともに、身近な場所に交流の場があるといいなというふうに考えておりますので、関係団体等と連携して増やしていきたいと考えております。

また、「ぱく増し料理教室」ということで2枚、チラシを配らせていただいております。今回2月の「ぱく増し月間」に合わせて、シニア男性向けの料理教室というのを、1回はURの大谷田一丁目団地にある「読む団地」で1回開催しました。

もう一回は2月19日で、ギャラクシィの「とんがりキッチン」で実施する予定になっております。

実は「ぱく増し」の栄養講座では男性の参加が少なく、共食の場も女性が中心で、男性の参加が少ないということもありまして、今回は男性を限定に、料理教室をやってみようかなということで考えました。

特にこの「読む団地」のほうはもともと東和の地域で、昔から月1回料理で集まっている男性のグループがありましたので、その男性のグループにも今回お声がけをしました。また、大谷田の団地を中心に地域の男性にもお声がけしました。できればその男性グループの活動に皆さん参加してもらるといいなというのも含めて、教室をやらせていただきました。

定員15名のお申込みがありまして、当日、体調不良の方もいらっしやっただので、13名の方に来ていただきました。

中川のハウカツと、東和ハウカツからチラシをまいていただき、他、「あだち脳活ラボ」で65歳以上の男性限定で情報発信をしたところおかげさまで定員いっぱい参加がありました。簡単な料理ではあったのですが、その後の交流で皆さん楽しく会話をしながら交流して、「ぜひここが通いの場になるといいね」と説明をさせていただいております。

なので、2月19日も、管轄の西新井のハウカツと「共食の場を立ち上げたい」という地域の男性の方にもお声がけをして、和気あいあいと実施できたらなというふうに考えております。

ちなみに、この「イワシのレトルトの生姜煮」というのは大変好評で、「ぜひ使ってみたい」とか「食べてみたい」というお声が沢山ありました。

続きまして、資料をつけさせていただいています。2月が「ぱく増し月間」ということで、こちらの広報紙1月25日号、表紙と裏面「ぱく増し料理集」とさせていただいております。

裏面は、フレイルとか「ぱく増し」の紹介とか、プレゼント企画を載せていまして、表紙は「ぱく増し」の招き猫のキャラ

クターと、「ハウカツに来るとハンドタオルがもらえますよ」と、ハウカツに知ってもらうきっかけづくりということで、下のほうにハウカツの紹介をさせていただいております。

もう一つが、前回の部会するときにも、まだ案ということでお配りしたと思うのですが、こちらが最終的な「ぱく増し月間」のリーフレットになります。すき焼きのお肉とかホタテ、ツナ缶とか、あと味の素さんにご協力いただいてクノールのスープとか、いろいろな商品が当たると、後ろのほうでは、「ぱく増し」の啓発を載せています。全部で46,000部作りまして、ハウカツとか区の施設、あと成和信金さんとかスーパーなどで配らせていただいたり、その他介護予防チェックリストの結果表22,000部程度と一緒に同封したくさんの高齢者の方に配布してもらいました。今日現在で、申込みが3,000ぐらい来ておりましたので、また引き続き周知していきたいと考えています。

以上になります。

○酒井部会長 ありがとうございます。

2月4日の料理教室は盛況に終わったと。

○千ヶ崎係長 はい、おかげさまで。

○酒井部会長 そういことですね。今度は2月19日にギャラクシティでやると。定員が若干少ないのは施設の関係ですか。

○千ヶ崎係長 ここはもともと、消防法の関係で講師も合わせて16名しか入れないということで、講師が2人なので、定員14名にさせていただいています。

○酒井部会長 メニューが、同じものが出ているのですけれども、これは同じも

のを予定しているのですか。

○千ヶ崎係長 そうですね。地域が違いますので、できればそれぞれの会場の近くにお住まいの方に来ていただきたいと思っておりますので、メニューは同じメニューで考えています。

○酒井部会長 ありがとうございます。
あだち広報の表面と裏、よく確保しましたね。

○千ヶ崎係長 高齢者の方は、広報を見る方が多いということで「ぜひ活用してください」というふうに広報のほうからも応援していただきました。今年はこの黄色がすごく鮮やかで、目立つ広報になったなというふうに考えております。

○酒井部会長 広報の中で一番目立つのがこのあだち広報なのですよね。なおかつ、この「たんぱく質」「筋肉」の猫も、今までいろいろな場所に出ていたのですが、一番メインの広報に登場したということだと思いますから、何回か今後掲載されるといいと思います。

○千ヶ崎係長 そうですね。「これを目にした」というお声もたくさん頂いておりますので。

○内山委員 シルバーで配らせていただきます。

○千ヶ崎係長 よろしくお願ひします。今年シルバーさんとかたくさんの講座の他、高齢者の顧客が多いということで、足立成和信用金庫でも営業さんから直接お客様に配っていただきました。

○酒井部会長 「ぱく増し料理教室」、男性をターゲットにということで、男性は外に出てくるのがおっくうなのですけれども、食べなくてはいけないことは同じなので、料理にこだわりを持っている男性も結構いらっしゃるので、そういった

意味では興味を引くものというふうに思うのですね。

1つ思ったのは、開催日なのですが、平日の昼間ということなので、昼間に開催というのは食べていただくということなので昼間だと思うのですが、例えば土日祝祭の実施というのは難しいのですか。

○千ヶ崎係長 千ヶ崎のほうから回答させていただきます。

おっしゃるとおり、今65歳以上の方でも平日お仕事されている方が多くなっておりますので、その辺をリサーチしながら、土日も含めた開催も今後ご意見を頂きながら検討していけたらと思います。

○酒井部会長 そうですね。毎回は無理としても、たまに土日やってみるとすごい集まったというのも出るかもしれないですね。

○千ヶ崎係長 そうですね。ありがとうございます。

○酒井部会長 ありがとうございます。
それでは、今日メインの、学術的な場面に入ってまいりました。報告事項の5になります。「令和7年度地域資源の把握および地域課題の抽出に関する報告について」足立社会福祉協議会基幹地域包括支援センター、堀東部課長よりお願いしたいと思います。

○堀委員 お世話になります。基幹地域包括支援センターの堀から、ご報告させていただきます。あまり長くならないように10分ぐらいで概要をお話しして、諸先生方からご意見交換をしていただけたらということなので、これのお話をさせていただきます。

令和7年度の区に提出した報告書を今日、お配りをしていただいたということ

でございます。

はじめに、1 ページ目ですね。「地域支え合い推進員」ということで、全国的には「生活支援コーディネーター」という名前になっていますが、足立区にもこれが配置されて、今活動を行っている、業務を行っているというところですよ。

めくっていただきまして、2 ページ目に「地域支え合い推進員の配置」ということで、既にご承知いただいていることかと思いますが、第二層と第一層というふうに分かれておりまして、第二層が日常生活圏域、各包括支援センターごとに機能配置されているというところですよ。第一層のほうが「区域」ということで、基幹地域包括支援センターにてその業務を受託させていただいております。

仕事の内容ですけれども、3 ページ目をご覧ください。「目的」といったり「業務内容」といったり、厚生労働省の資料には様々に出てくるのですけれども、一番分かりやすいのは、3 ページの中ほど「生活支援・介護予防サービス」、こうしたものを「地域の中で充実していくように」ということで、地域の皆さんと一緒に活動するというような仕事になっています。介護者の支援から交流サロン、それから見守り・安否確認というふうなところまで、生活の中に入り込んだ活動というのを、お手伝いをさせていただいております。

4 ページ目です。「生活支援体制整備事業」というのは今の「地域支え合い推進員」を配置するということとともに、その内容について「各地域で話し合える協議体をつくってください」という厚生労働省のガイドラインになっておりまして、足立区においても協議体を設置して

いるというところですよ。今ピラミッドの図で三角形ですね。様々な会議体がありますけれども、右下の「絆のあんしんネットワーク連絡会」、こちら孤立防止のためのネットワーク連絡会ですけれども、こちらを第二層の協議体として25か所で年4回ずつですので、計100回、足立区内で開催されているというものになります。その課題を取りまとめていって、一番上が「はつらつ高齢者部会」ということになるわけですが、今こちらが第一層協議体に位置づけられているということで、報告をさせていただいております。

5 ページ目ですね。「令和7年度の取り組み」ですが、実は令和6年度から継続して課題を定めて取り組もうということで、令和6年度に抽出した課題というのが「担い手の不足」「活動場所の不足」、そして3つ目に「共食の場の支援」ということで、抽出してきて取り組んでまいりました。図4のとおりのお取組内容でございます。一番上が第一層協議体と言っているのは、区レベルで検討いただいた内容でございます。まして、「元気アップ教室の見直し」というのがございます。また「インセンティブの強化」というのもございますが、これを形にさせていただいたのが本日の前段の神家満係長からの報告内容だったと。

一方で、私のほうは、下の青いマスで、編み掛けで囲んであるところで、25のハウカツとともにこうした課題についてどういうふうに取り組めるかということと一緒に協議してきたというようなことでございます。

6 ページ目ですね。「担い手、活動場所の不足に関する実践事例調査」。各ハウカツでどんな取組をしているかというところ

ころを自由回答の形でアンケートを集めまして、それを集約して、「担い手の発掘10のヒント」というメモを作りまして、包括支援センターの職員研修で共有をしたということです。大体「活かせる」という回答が合わせると100%になりますので、皆さんに効果を実感していただけたと、こういうふうに考えております。

それから下が「共食の場活動者交流会」ですね。コロナが終わった後、これ大分出てきていますので、活動されている方同士の交流会が写真の奥側に口の字で集まっているのですが、そこにギャラリーが、この手前の教室形式で並んでいらっしゃる方々ということで、皆様からこれも回答、アンケートを頂いています。大分イメージが膨らんだということで、いい助走になっているかなというふうに感じているところです。今、立ってしゃべっているのが千ヶ崎係長です。係長にもおいでいただいて共有をいたしました。

その次が統計的な部分でございます。「通いの場の活動状況」のほうから見てまいりたいと思います。8ページ、9ページ等をご覧ください。全体状況について報告をしています。令和7年度の通いの場の総数は、これは9月現在の数字なのですが、368となりました。令和6年度が223でしたので大幅増となりまして、足立区の数値目標を大幅に上回ったというような形で急速にその数を伸ばして、活発に活動していただいているというのが統計上の結果でございます。

それから、続きまして10ページ目ですね。「通いの場の種別ごとの募集状況」ということで、募集状況ということ言うと、孤立防止のために行っているふれ

あいサロン、この「ふれあいサロン」と「自主グループ」と「その他のサークル等」を3つ足して「通いの場」ということになるのですが、そのうち「ふれあいサロン」に登録されている通いの場については、募集中が88.6%であるのに対して、「元気アップ教室」から卒業して自主グループになったグループというのは、必ずしも「受け皿になってくださいね」というふうなものと、ともにはやっていないので、仲よしのグループをつくって「明日からもウォーキングしてください」ということでやっていたものですから、「メンバー募集中」というふうなところは、必ずしも多くないというあたりの特徴が見えております。

それから、ページを進めまして、13ページでございます。「生活支援の活動状況」ということで、この報告がちょっと見にくいのですが、中ほどに「対象とする事例」というのが、(3)のcのところがございます。(3)のc「対象とする事例」ということで、その後またa・b・cが続くのですが、先ほど2、3ページ目のところでお話しさせていただいた「地域支え合い推進員」の業務の内容ですね。期待される資源創出ということで、介護者支援から始まる5つの活動というのが期待されているということでございました。この中に交流サロンも入るので、交流サロンについては前段でお話をさせていただいたので、毎年継続してきていたので、残りの5項目について各ホウカツから、これも記述式で、まずは大体の当たりをつけるための調査ということで、やらせていただきました。ページは次のページ、14ページ目になります。一番上から「総事例数」ですね。

件数としては85件の活動が寄せられました。

「実施主体」は地域が70件、民間事業者が行っているサービスというのが14件、ハウカツが1件でした。それから、「実施状況」は検討中が3件含まれています。というところで、ハウカツが現在取り組んでいるというようなところも入っています。

それから、地域包括支援センターが創出に関与したかどうかということと言うと、地域の中で自立的に行われているという活動を、「生活のための地域資源である」とハウカツが認識して報告を上げてくれたという内容でございました。

ということで、あとはそれぞれの活動部類ごとの特徴をまとめてございますが、初めて行った調査でございまして、やはりこれからハウカツが全ての通いの場、全ての活動に関わってやるのだということになると、自ずから活動量に限界が出てしまうので、やはり地域で行われている活動というふうなところといかに連携していくかということが、とても大事なのではないかなというふうに気づかせてくれるような調査結果になったかと思えます。

それから、15ページ目「ハウカツの支援事例」ということになります。これは全部読み上げると大変時間がかかってしまうので、そうですね。例えば事例2と事例5のところをちらっと見てみたいと思えますが。事例2が千住西、包括支援センターの名前で掲載していますけれども、その千住西さんで、「みんなでスマホ×キャラカあだち」の連携事例となっています。今これ、19ページの写真を見ていただきますと、右下の、左側の女

性が若いというのが見ていただいて分かるかなというふうに思いますが、実は包括支援センターの周りで活動している高齢者と、それから障害福祉サービス事業所のキャラカあだちさんの利用者さんのマッチングで、スマホ教室を行いましたという活動です。これは、2回目以降も継続して行われているということで、そのあたりのマッチングというのは、よかったのではないかなというふうに思っております。知的障害だったり精神障害だったりしますけれども、そういったところから活動に向かっていく若者が多いのです。このあたりの方々と、それから高齢者が出会うということで、お互いにより効果が生まれるというふうなところが目に見えて分かります。高齢者は若い子と話していることを喜んでいらっしゃるようにして見えますし、どの現場でもそうなのですが。一方で、おじいちゃん、おばあちゃんに褒められたみたいな形とか、満面の笑みで迎え入れてもらえますので、そうした意味では、そういった社会参加にちょっとハードルを抱えるような若者とかも一歩としては非常にいいのではないかなというふうに思っているところでございます。

それから、24ページに飛んでいただきまして、事例の5番です。

今、認知症施策のほうも大変厚めになってきているところで、また一段と機運が高まりそうな状況の中にありますが、軽度認知障害の方、これは了解を頂いて、お顔を出して大丈夫ということで広報の協力も頂きましたが、包括支援センター中川さんの事例で、右側の写真ですね、25ページ。有料老人ホームでの演奏、これ後ろ側に100人ぐらい聴衆がいる

のですけれども、この男性が終わった後、大変喜ばれたということで、報告を受けております。

「送迎支援の様子」というのが2段目に入っておりますが、軽度認知障害ということで活動されていますが、このあたりの行き来のところ少し難しくなっているところがあるということで、このあたりのサポートを入れながら、職員と関係機関とで協力しながらサポートしたというような事例です。

こういった活動が今後求められてくる場所も大きいかないというふうに考えております。

最後になります。28ページにまとめの項目を設けてございます。

「地域課題の抽出と解決の方向性」ということで、令和8年度においては引き続きの課題に取り組んでまいりたいと思います。「担い手の不足」「活動場所の不足」、それから「共食の場の支援」、この3項目が引き続き足立区では継続的な、根源的な課題になるかなというところで、ここにもう1段階、さらに取り組んでいきたいというふうに考えています。

ただ、「担い手の不足」と一口に言った場合にも、いろいろな担い手の不足があるということで、例えば認知症の先ほどのような場をつくらうと思えば、認知症の人とともに活動してくれる担い手というのが必要になるわけで、何でも担い手と場所というのは必要です。そんなところから「令和8年度に留意しておくべき事項」として、3点を挙げさせていただきました。1つは「認知症基本法への対応」。足立区においてもこれから条例が上程されるというふうな予定と伺っております。それから、「多機関・多団体の連

携のさらなる促進」ということで、冒頭お話しさせていただいた「担い手の発掘10のヒント」という、ハウカツの現場でのヒント、知恵をまとめたヒント集があるのですけれども、やはり「ハウカツだけではなくて、いろいろな団体と連携してやっていかないといけないよね」というようなところが繰り返し確認されているところがございますので、このあたりをまた一歩進められるように取り組んでいきたいということにしております。

最後に、29ページ目、3番になりますが、「あだち人生いきいき会議等との連動性の促進」ということで、これは要支援レベルの方の地域ケア会議、地域ケア会議の要支援者版というような感じでイメージしていただけたらと思いますが、比較的活動量のある方々の社会参加の機会をどういうふうにつくっていくかということで、「あだち人生いきいき会議」という会議体がブロックごとに行われておりますけれども、このあたりの結果と、私どもの担当させていただいている生活支援体制整備事業との関連性というのを一層高めて、課題解決に向けていくというふうな動き方を、今後考えていかなければいけないなということで相談していると、そんな内容でございます。

報告は以上です。

○酒井部会長 ありがとうございます。これを読むと、今まで様々な話題とか検討してきているものが、ここに位置づけられるのだとか、どこが悩みなのかなというのがよく出ていて、これは迷ったらここに行くというのが非常に重要なかなというふうに思いました。

6ページの「実践」ところで、活動者交流会の中で「『担い手の発掘10のヒ

ント』は今後の業務に活かせると思いますか」という質問があって、また後半のほうでも出ていまして、やはりこの「10のヒント」というものが、担い手のポイントですね。これがとても気に入りました。逆に言うと、ここで検討されていくものの、悩みとかいろいろなものがこの「10のヒント」に多分凝縮されているのではないかなというふうに思ったものですから。これは門外不出のものなのですか。

○堀委員 できれば報告したいと思っているのですが、もう少し構造化するか、あるいは実は「10のヒント」自体は研修で学び、共有しましたので、各ホウカツでそれを活かした実践というのを今取り組んでくれています。その活かした実践について追加調査を行っていきまして、その結果とあわせて、来年度になると思うのですが。

○神家満係長 ぜひ次回の部会で。

○堀委員 では中身をお持ちできるように準備して。

○神家満係長 私も見させていただいて、研修一緒に参加させていただいて「10のヒント」につながる取組は、そこから分岐して行って100ぐらいありましたよね。なので、それをテーマごとに統合して行って10に絞ったという、そこまで絞ったという取組が、やはりほかの自治体から見ても例がないということで、非常に参加された方から高評価を頂いていました。

○酒井部会長 事例が16ページ以降に出ていて、逆にこの事例をまとめていく作業の中でヒントと言えるものも出てくるし、課題も見えてきて、それをまとめていったものなのかなという気はするの

ですけれども。

私から質問が1つあって、8ページの「通いの場の活動状況」。「通いの場の数は」とあって368とあるのですね。足立区のこの広さの中で、通いの場、趣味、大きく3つぐらい分かれるということだったと思うのですが、368というのは、これはどれぐらいの規模感で評価されるものなのでしょうか。

○神家満係長 事務局の神家満です。「通いの場の数」につきましては、現在の高齢者保健福祉計画、第9期介護保険事業計画のところでも区としての目標値を設定させていただいております。ただ、その目標値をはるかに超える、今現状としてはそういう数字になっています。

昨年まで区としては、やはり生活圏域の中で、高齢者の方が通える居場所をつくっていきこうというところに注力しておりまして、ホウカツにもご協力頂きながら、数を増やすというところを考えてきていたのですけれども、このたび、各地域の中にどれだけの数があるべきかというところで数を整理させていただきまして、今は「各圏域ごとに幾つ」という目標値を設定させていただいております。それは、地域ごとの高齢者人口によって数はエリアごとに違うのですけれども、その幾つと定めた目標に対して、足りなければ1つずつ増やしていきましょう、もしくは地域で活動をしているところを見つけていきましょう、もう充足しているところについては、では増やすだけではなくて、そこが継続できるようなフォローをしていきましょうと。その2方向からこの「通いの場」を維持していきこうという考えで今、進めています。

ただ、今368というのは、数として

は非常に多いなど。目標値としては大幅に超えている状況です。

○酒井部会長 ありがとうございます。圏域で考えていくということと、それからまず数を増やしていくということが非常に重要で、区のほうとしてはそのような方針で。

○神家満係長 これまではやってきていました。

○酒井部会長 動いていたと。あとは質と継続性と、という話でしたね。

○神家満係長 そうですね。

○酒井部会長 ありがとうございます。

この報告書を受けて、ご質問なりご意見なり、ございましたら。

○小浦委員 栄養士会小浦です。伺いたいのですけれども、場所を忘れてしまうとか日時を忘れてしまうというのは、ご本人にとっても困り事だったのでしょうか。それを気づき、気づいてもらうところからの支援だったのでしょうか。

○堀委員 これは地域包括支援センターの実態把握訪問の中で出会った方ということでした。

少しずつ進行が出てきた中で、少しずつサポートを当てていったというような、地域包括支援センターの丁寧な活動だったというふうに思います。

本人のほうにも不安があったような部分は聞きますし、同時に、移り変わりがあるというふうに聞きました。初め聞いていたのは、「とにかく掃除でもなんでもいいから働きたい」という、「働く場所がほしい」ということで、再就職の活動をされているけれども、なかなか通らないというふうな状況とかニーズが聞かれるかと思えば、ずっとこういった活動を続けていったときに「やはり自分ができ

ることをやりたい」というニーズが出てきたりとか。それを1つひとつの話を受け止めながら、その場でできることというふうなところをこのチームで今取り組んでいるというような、そんな状況というふう聞いています。

○小浦委員 ありがとうございます。結構、周りが支援をしてさしあげたくても、やはり本人からするとなかなか大きなおせっかいという場面というのはよくあると思うのです。

食事の支援でもそうなのですけれども、ご本人の自覚としては「できています」という、「別に誰の助けも要らない」というふうな場面もとても多いので。ホウカツさんがどのように心をつないで、信頼関係をつないで、このタイミングでこの人、こういう団体を紹介して、ご本人が「頼ってみようかな」と思えたのかとか、何かそのあたりの経緯とかが聞ける機会があればいいと思ったりしました。

○佃係長 認知症施策担当の佃と申します。

この方この経過について認知症担当としてホウカツから聞いております。二、三年前実態把握訪問で、「自分はこういう軽度というふうに言われますけれども、働いているから大丈夫です」と話していたそうでございます。

ただ、やはりその後、ホウカツ職員が気になるというところもあったようなので、また日を置いて訪問したときに、勤めていたお店がもう閉店になってしまうというところで「何でもいいから働きたい」みたいな話もあったそうなのですが。そのときにホウカツが通いの場をマッチングするような役割をして、その「通いの場」の方たちの理解が非常によく、

またハウカツのマッチング力も非常によかったというところと、「地域で、みんなでこの方と一緒に過ごそうよ」という機運がかなり高いなというふうに、私のほうでも感じています。

認知症施策担当としても、やはり認知症があっても社会参加していくところを、来年度も力を入れていきたいと考えていますので、この活動については、堀課長と一緒に進められたらと思っています。

○堀委員 実は先日ハウカツ職員の研修で、このケースについて報告をしてもらって、25のセンターといろいろ協議をしたのですが、その中で一番最後に主任ケアマネジャーの職員、ある職員が「まとめて、振り返って発言してください」ということでお願いしたのですが、やはり足りない部分を埋める支援を、通常我々はするのですよね。最低限の生活の安定とか、日常生活の食料の確保とか、通院のための足の確保とか、全部、足りないものをどうやって埋めるかというふうなことをまずはやらなければいけない。それをやるということが思考法として大体そういうふうになるのですけれども、この方の場合、足りないは足りないのですが、「この人がしたいというふうなところに沿って、足し算していくような感じの支援だと思いました」というような感想を述べられておられました。

なので、どちらも大切なのですが、ともすれば、足りないものを埋める支援というふうなところに福祉の支援というのが、忙しいと特に陥っていくところがあるので、そういう中でこういう観点も大事なのだなというふうに現場的に

は、大分久しぶりにこういう事例に出会ったなという、そういう感じの事例です。

何かそういうものを、今認知症の施策とか、認知症の問題というのがスポットライトをもう一度当てているという、そういう時代にあるような気がしています。

以上です。

○酒井部会長 ほかいかがですかね。

○佐藤委員 まず、2点あって、1つ、「通いの場」の話は、活動としてはすばらしいことだと思うので、もっと続けていっていただければとは思いますが、どうしても通っている人はいろいろなところに顔を出すのですね。全く顔を出さない人は顔を出さないしというところで。その後取りこぼしではないですけれども、そういう方々の、逆にグループがいっぱいあると「もう今さら入れないのだ」みたいなそういうのを感じることも多いと思うので、そこら辺の今のグループの人たちに声をかけてもらうみたいなのを具体的にするなりというので、そういう数を大きくするというか、分母をとということだったり。

先ほどの方もそうですけれども、やはり最初は必要性を感じていなくても、何かあったときに相談するときにはやはり最初コンタクトがあれば相談できると思うのです。ですけれども、全くないかどうか分からなくて、結局気づいたときには遅いというか、もう少し早く知っていればということが多職種連携の話でよく聞きますので。そのようなところも、どれというわけではないですけれども、やはり1つひとつの事例みたいになるのを目指すとは思いますが、もちろん、現場のほうでは認識されているとは思いますが、そこを頑張っ

ていただければありがたいなと思いました。それが1点です。

あともう一つ、担い手のことですからけれども、今ふと思って調べたのです。今足立区に大学を誘致している、大学生がいるのではないですか。その大学生にそういう参加を促す話はあるのですか、具体的に。

○神家満係長 事務局の神家満です。高齢者地域包括ケア推進課のほうで行っている介護予防事業施策の中で、実際に大学生とコラボしてやるというところは「通いの場」に関してはまだ打っていませんね。

ただ、認知症予防の施策のところ、例えば認知症の理解を深めるための認知症サポーター養成講座を大学生に受けてもらっていただいたりとか、あとは各エリアのハウカツさんのほうで地域から大学のほうに働きかけて一緒に多世代交流の場の講座をやったりとか、イベントを打ったりというのは情報としては聞いています。

○佐藤委員 例えば帝京平成大学には、健康メディカル学部というのがあるみたいで、そこに介護職はちょっとこの学科だと見当たらないのですけれども、作業療法学科とか、理学療法とか、他職種の人もいらっしゃるし、そういう学生さんにとって、学びの場にはなるとは思うので。

○神家満係長 現場を知ってもらうような感じで。

○佐藤委員 そうですね。だから、逆に大学、その学生に直接じゃなくて、例えば実習先とか、そういうので、この教室に参加してもらおうとかというのをすると、お互いにとっていいのかなと。せっかく

頑張っって大学が足立区にできたので、そういう意味でうまく活用すればいいのかなと思う。そうすると、お互いプラスになるのかなと思うのですね。

○堀委員 基幹地域包括支援センターの堀です。

大学生とのコラボレーションは非常に大事だと思っていて、帝京科学大学の場合は、千住西のエリアになってくるのですが、域外の団地の見守りを帝京科学大学の学生が行うという、学生グループの活動というのと結びついて活動できています。

また、認知症のほうでも連携を、帝京科学大学とはさせていただいているというようなつながりがあります。

それから、文教大学のところは花畑ということになりますけれども、ここもコミュニケーションはあるのですが、こちらのほうはあとまたもう一歩一歩という、フックがいまひとつ見つかり切らないというふうなところで、継続的にコミュニケーションだけは取っているというような感じに聞いております。

○佐藤委員 文教大学のほうは、デザインとかのほうで、あまり直接関係ないのですけれども、ただそのコミュニケーションというか、今の若い人たちが高齢者と将来、今もう高齢化社会で関わっていかなくてはいけない中で、地域として、大学とのそういうコラボレーションは大学教育にとってもいいのかなとは思っています。

○堀委員 はい。気に留めて。意識してやっていきたいと思います。

○神家満係長 大学ではなくて、高校のボランティア部さんと連携して、例えば地域のちから推進部なのですが、絆のあ

んしん協力員の活動のお手伝いだとか、そういった学校への働きかけというのも区としてはやっていますので、今頂いたご意見も踏まえて、今後より充実するようには考えていきたいと思えます。ありがとうございます。

○酒井部会長 貴重なご意見ありがとうございます。ほかよろしいですかね。

○山ノ内委員 1個だけ質問で、山ノ内です。

質問なのですけれども。「通いの場」の自主グループ、「元気アップ」の自主グループのところの募集をあまりグループはしないということと関係があると思うのですけれども。これというのは、最初つくった、どちらかという気合の合った人たちで、そこにあまり入れたくないという気持ちもあるという感じなのですかね。

○堀委員 そうですね。基幹地域包括支援センター堀からお答えさせていただきます。

仲よしグループをつくるのがポイントで、今回も仲よしグループを意識して。やはり仲がよくないとだめなのですよね。それから、趣味も共通していればより結びつきがよくなるということで、いろいろな活動の中から、それぞれ好きな活動ごとにグループ化されていくのがいいのではないかとこのところではやっています。ふれあいサロンの場合は「地域の孤立防止のための活動の事業にあなたも入りませんか」と言って入っていただいているわけですよね。自主グループ「元気アップ教室」から入る場合は、「介護予防活動を始めませんか」「グループでやってみませんか」と、ベクトルが自分の健康に向かっているところからのスタートなので、多分両立すると思うのですけ

れども。その支え合いの部分といいますか、佐藤委員からたった今頂いたとおり「こぼれる人への声かけみたいなものに少しでもご協力いただけませんか」というか、そういう働きかけというのを今も緩やかにはしているのですが、あまり出し過ぎると今度人が集まらないというところとの兼ね合いで、今試行錯誤しているというような状況なのですね。

ですので、ここがもう少し「絶賛募集中だよ」と言ってくれるような自主グループさんが増えていくように、働きかけていくというのは一つの課題となると思います。

○山ノ内委員 ありがとうございます。

○神家満係長 確かに、より開かれたグループをつくるということが、区としては一番いいのですけれども、やはり皆さん、自分たちの健康のためというのがまず最初だと思うのです。ではそういう開かれたグループをどうするかということで、少しやはりインセンティブがあると、やはりグループ、自分たちの活動を継続するためにも、開かれたグループである必要があるんだなという。

やはりグループ共通の課題というのは、先ほどの場所であったり、経費の問題だったりということところが共通して出てきます。そういったところに「ふれあいサロン」という開かれたグループになってもらえれば、こういう活動のお手伝い、「助成が受けられますよ」とか「広報支援が受けられますよ」とか、そういうメリットがある。「自分たちの健康のためにやっているグループだけれども、そういう活動をすれば自分たちにとってもいいことだし、社会にとってもいいことだから、ではやってみようかな」という、ちよっ

と目先の利益にはなってしまうのですけれども、そういったものも、制度も使いながら、徐々に徐々にそういう扉を開いていけたらいいなというのは、今考えているところです。

○山ノ内委員 ありがとうございます。

そうですね。逆に、そういうのは僕、悪くはないなと思うのですね、そういう仲よしグループは。やはり継続ということを考えてらば、健康がまず前提にある話で、そこがないと継続できないので。

それであれば、数が多いというのは逆に悪いことではないのかなと思いますね。たくさん小さいグループがいっぱいできなくてもいいのかなと思うのと。先ほどあった継続支援の話というところと、そういうところがうまくつながってきて、内向きの同じ趣味のところに紹介、支援できるというのだと、やはりよりいいのかなと。ありがとうございます。

○神家満係長 ありがとうございます。

やはり一度出来上がって、数年続くグループがたくさんできればいいのですが、各グループが抱える年齢的なものであったり、人間関係の問題であったりとか、いろいろな課題がありますので、やはりどのグループも必ず長続きするかというところでもないのです。

そういうことも考えるとやはりある程度の数というところは必要になってくると思います。おっしゃるとおりだと思います。

○山ノ内委員 ありがとうございます。

○神家満係長 ありがとうございます。

○酒井部会長 ありがとうございます。遡ってこれまでの報告事項についてのご意見を含めていかがですかね。よろしいですかね。

本日は、生活支援体制整備事業のまず

報告を頂きまして、各報告事項がこの地域資源の把握や地域課題の抽出に、そもそも完全に一致するものなのだというのがよく分かりました。

やはり閉じられた「通いの場」であってはいけませんし、広がりなくてはいけない、継続していかなくてはならない、そういった意味で、この「はつらつ高齢者部会」の活動としては、継続性を持ったそういう集いの場なり、自主グループの調整なり創出なりをしていくというのが課題であるということが、最後のご報告でよく理解できたところです。

本日は、様々なご意見を頂きましてありがとうございます。来年度のよいまとめとスタートになったかと思います。

それでは、「その他」ですね。

○神家満係長 はつらつ高齢者支援係の神家満から、最後、その他の案件についてご報告をさせていただきます。

今年度、今日も含めまして、委員の皆様にご質問、ご意見をたくさん頂きまして誠にありがとうございます。

はつらつ高齢者部会としては、今回が今年度最後の回になりまして、次回3月13日の金曜日、午後2時から、こちらのはつらつ高齢者部会の親会議になります「足立区地域包括ケアシステム推進会議」を予定しております。場所は区役所ではなく「すこやかプラザあだち」3階の大研修室となりますので、ご注意ください。

また、日にちが近くなりましたら皆様に、通知等を送らせていただきますのでよろしくお願いいたします。

この3月13日の推進会議では、このはつらつ部会で協議、検討いただいた「はつらつ教室」と「みんなで元気アップ教

室」、栄養施策のところも含めて総括して、この部会以外の委員の皆様にもご報告をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私のほうからは以上です。

○酒井部会長 ありがとうございます。

それでは、本日の議事は終了ということで、お願いしたいと思います。

○富田 酒井部会長、ありがとうございます。委員の皆様におかれましても、長時間にわたり様々なご意見、ご質問を頂きましてありがとうございます。

最後に、事務連絡がございます。委員の皆様で、本日お車でおいでの方につきましては、お帰りの際に事務局にお申しつけください。駐車券をお渡しさせていただきます。

それでは、これにて令和7年度第3回はつらつ高齢者部会を終了とさせていただきます。本日は、ありがとうございます。